

ゴロゴロ、ゴロゴロ…。胸の辺りで、たんのたまった音が聞こえる。放っておけば気管や肺に詰まり、呼吸が苦しくなる。

岡山市立竜之口小学校(同市中区四御神)に通う4年の足立大和君(10)の隣で、女性がトラシーバーと呼び掛けた。「お父さん、たんを取ります」。隣の部屋で待機していた父の真悟さん(33)が来て、喉に差し込まれたカニューレと呼ばれる管から人工呼吸器の回路を外す。それを待って女性はカニューレ内に細長い管を入れ、たんを吸い上げた。

女性は大和君のために岡山市教委が雇用した「看護支援員」と呼ばれる看護師だ。たんの吸引は看護師ができる医療行為だが、なぜ2人するのか。

「呼吸器の着脱は命に関わるので、慣れた保護者をお願いしている」と同市教委指導課。着脱はたんの吸引に欠かせない作業の一つだけに事実上、付き添いを求めていることになる。

## 一緒に学びたい…医療的ケアの壁



足立大和君への医療的ケアを担う父親の真悟さん(右)。毎日学校へ付き添っている

### ② 付き添い

学校での医療的ケアが注目され始めたのは2000年代に入ってからだ。人工呼吸器や胃ろうなどを必要とする子どもが増える一方、病院のNICU(新生児集中治療室)のベッド確保や子どもの権利を守る目的から長期入院を解消して在宅ケアに移る動きが進んだ。

「以前は病院から在宅ケアに移る子どもは年1、2人、ゼロの年もあった。今は多い年で10人以上いる」と倉敷中央病院(倉敷市美和)総合周産期母子医療センターの渡部晋一主任部長。

「この子たちが今、次々と就学年齢に達している」

文科科学省の調査では、昨年5月時点で、全国の特別支援学校で日常的に医療的ケアが必要

な子どもは8143人、公立小中学校は8339人。支援学校は06年から38%も増えている。

受け皿づくりが求められる中、文科省は05年、教職員にたんの吸引や胃ろうなどの「経管栄養」を一部認めるよう全国の教育委員会に通知。自治体も学校への看護師配置を増やすなど対応してきた。

ただ、看護師ができる医療的ケアに関して文科省は「子どもの状態が多様で一律の対応が難しい」と明確には定めておらず、各自治体は慎重になりがちだ。

岡山市教委は「医師がいなくて医療設備も整っていない学校で安全を確保するには課題が多い」と指摘。学校の看護師はパート雇用となっており、「保護者がいない状態で医療的ケアの責任を全て負うのは不安との声

## 安全確保へ保護者に負担

「学校は大和が授業を受けやすいように全面的に応援してくれている。後は付き添いがどうにかなれば…」

足立真悟さんは、妻の晴奈さん(33)が第2子の妊娠・出産で学校に同伴できなくなったため、介護休業と育児休業を相次いで取得。育児休業は最大で来年7月まで取れるが、今は金銭的な保障がなく「仕事に復帰しないと生活が立ちゆかなくなる」と訴える。

「泰地の体が冷えないよう手足をこまめにさするなど、よく観察し、授業に集中させてくれている」

大森美代子さんは、看護師に感謝しつつも毎日の付き添いの疲労を隠せない。

毎朝5時半に起きて家事をしながら準備に追われる。早朝から夜までゴルフ場に勤める夫の克也さん(44)からは、サポートを受けるのが難しい。自由な時間がなく、買い物にも行けない。自分が体調を崩して学校を休んだ日、泰地君が涙を流していたのは何よりこたえた。

「せめて週1日だけでも付き添いを外せたら…」と美代子さんは思う。(阿部光希)

**小5女児 被告に死刑**

福岡地 福岡県豊前市で、小学5年の女児(10)を殺害した殺人や死体遺棄など問われた土建業内告(47)の裁判員裁判、福岡地裁小倉田寿宏裁判長で、検察側は「生命軽蔑いは甚だ大きく、言い尽きる。更生はきない」として死刑を否定し結審。判決3日に言い渡され、論告で余刑判決

第4495回 ナンバーズ(じ) 数字選択式全国自治宝くじ(20日・東京宝くじドリーム館) <ナンバーズ3> ナンバーズ401

ストレート 86,600円 76口

ボックス 14,400円 353口

第890回 ミニロト 抽せん結果(じ) 数字選択式全国自治宝くじ(20日・東京宝くじドリーム館) <本数字>

01・07・12・24・31

◆ボーナス数字 06

1等 4,956,200円

2等 281,000円

3等 14,000円

【詐欺に「注意」】抽